

# 利根・沼田の教育

発行所 利根教育事務所  
発行人 宮内 伸明  
〒 378-0031 沼田市薄根町 4412 番地  
TEL 0278-23-0165 FAX 0278-23-0180  
E-mail : tonekyou@pref.gunma.jp

## 隠れた教育課程

利根教育事務所長 宮内 伸明

私が通っていた保育園では、毎月、「お誕生会」という行事がありました。内容は覚えていませんが、園児がいくつかの係を分担して、その月に誕生日を迎える園児を祝う会だったと思います。ある月の「お誕生会」で、私が「開会の言葉」の係になりました。みんなの前で「これから、お誕生会をはじめます」と言うだけなのですが、生まれて初めてのことで幼いなりに緊張した記憶があります。自分の役目を果たし、ホッと教室の隅まで戻ってくる私を、ニコニコしながら先生が迎えてくれるはずでした。ところが先生は、「良くできたね」という代わりに、「今日はお誕生会なのよね」と困ったように言ったのです。さらに、「さっき何ていったか覚えている？」と聞いてきました。それでもポカンとしている私でしたが、次の言葉でようやく事の深刻さを理解しました。

「伸明ちゃんね、『これから、お昼の放送を、はじめます』って言ったのよ」。

当時は、天気さえよければ、昼食後は、隣接した小学校の校庭に出て「お昼の放送」を聞きながら遊んでいました。少し大人びた「放送」に憧れていたのかもしれませんが、無意識のうちに『これから』+『お昼の放送を』+『はじめます』という言葉の組合せが、頭の中にとっかかりインプットされてしまっていたようです。

人生初めての経験で挫折したことがトラウマのように心に残り、今でも人前で話をするときには、意味不明な言葉をアウトプットしてしまうのではないかと不安になります。また、息子が3歳の頃、村の広域放送で『こちら』という言葉が流れてくると、条件反射的に『ぼうさい かわばです』と言っている姿に、自分自身を見るようで、言葉を覚えていることを単純に喜べない思いをしたことがありました。

完全実施が指呼の間にある学習指導要領では、小・中学校共に教育課程実施上の配慮事項として「言語環境の整備と言語活動の充実」が取り上げられています。言語活動の充実については、各学校において各教科等を中心にすべての教育活動を通して工夫をしながら進めていただいていることと思います。言語環境についても、子どもが目にしたたり耳にしたたりする掲示物や校内放送等のすべてが、意識的・無意識的に子どもにインプットされる『隠れた教育課程』であることを改めて確認し、子どもにとって適切で、しかも良質なインプットであるかどうか、定期的に点検・整備していただけたらと、我が身を振り返りながら願っているところです。

## 学校教育係

### 言語活動の充実

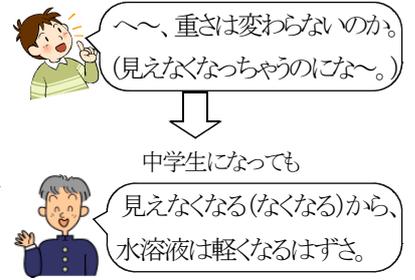
新学習指導要領では、基礎的・基本的な知識・技能と思考力・判断力・表現力等をバランスよくはぐくむ観点から、基礎的・基本的な知識・技能を活用する学習活動や言語活動の充実が必要であることが示されました。ここでは、小学校理科を例として、言語活動の充実について考えてみましょう。

小学校学習指導要領解説理科編(p.68)では、言語活動にかかわって次のような配慮事項が示されています。

観察、実験の結果を整理し考察する学習活動や、科学的な言葉や概念を使用して考えたり説明したりするなどの学習活動が充実するよう配慮すること。

例えば、小学校5年生「A物質・エネルギー」「(1)物の溶け方」のウ「物が水に溶けても、水と物を合わせた重さは変わらないこと」では、食塩を水に溶かす前後の重さを調べる実験を行い、「物が水に溶けても水と物を合わせた重さは変

わからないこと」をとらえられるようにします。その際、実験前に結果を予想させ見通しをもたせる学習活動は充実させています。しかし、結果に関する考察はどうでしょうか。実験結果で「重さが変わらないこと」は明らかであることから、考察を十分に行わないですませてしまうと、科学的な見方や考え方が身に付かない可能性があります。実際、平成17年度の「特定の課題に関する調査(理科)」によると、この内容が正しく身に付いている児童生徒は、小学校5年生で57.5%、中学校2年生で54.4%でした。

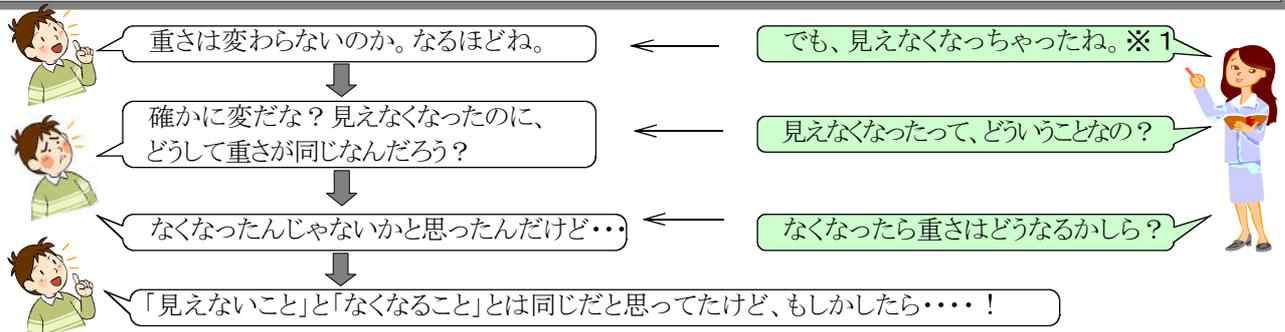


そこで、言語活動を充実させることにより、「重さが変わらないことからどのようなことが言えるか」を児童にしっかり考察させることで、実感を伴った理解を図ることができると考えられます。

ここでは、実験結果を考察する時間について、ねらいを以下のように設定した授業例を紹介します。

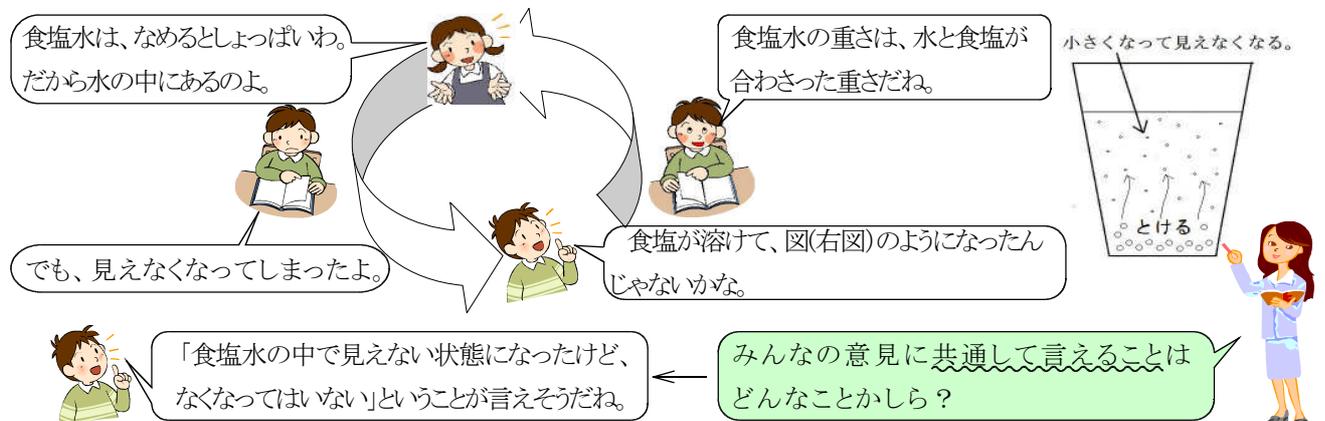
「水に溶けた食塩は、食塩水の中にある」と言えることを、実験結果に基づいて考察する。【科学的な思考・表現】

①自力で課題に取り組む(交流が成立するよう、児童一人一人に自分の考えをもたせましょう。)



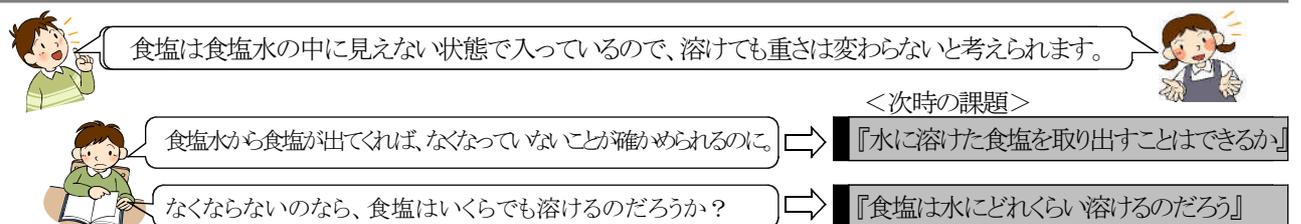
※1) あいまいなイメージや素朴な考えに気付かせる教師のかかわりが大切です。また、考察したことはノートに記録させ、交流につなげましょう。

②小グループで交流する(考えの共通点などから、実験結果について言えることをまとめさせましょう。) ※2



※2) 少人数にすることで、発言する機会を増やすとともに、発言しなくてはならないという思いをもたせられます。また、ノートの記録を基に話し合い、考え直したことも記録させましょう。

③全体で考察したことを確認し、次時の課題をとらえる (交流で出てくる疑問を、次の学習活動につなげましょう。)



以上のように、言語活動を充実させることにより本時のねらいが達成できると考えられます。ここで児童が身に付けた見方や考え方は、次の問題解決の過程を通じてさらに科学的なものへと高まり、しっかり定着することが期待できます。各教科においても、単元の目標や授業のねらいの達成のために効果的な言語活動を工夫し、取り入れていきましょう。